

《加藤日出男プロフィール》

(敬称略。平成22年3月28日現在)



生年月日(出身)	昭和4年(1929年)8月31日(秋田市出身)
勤務先名	財団法人根っこの家 本部 TEL. 049-222-2759 FAX. 049-225-0807
勤務先住所	本部 〒350-0062 埼玉県川越市元町2丁目8番地17 財団法人根っこの家

学 歴 お よ び 学 園 活 動

昭和26年3月	東京農業大学専門部林業科卒業。(旧制専門部在学中に寮長・千葉県茂原分校学生自治会委員長)
昭和28年3月	東京農業大学農学部農業経済学科卒業(在学中に収穫祭委員長・昭和26年に「大根おどり」を発案実施)

職 歴 お よ び 創 作 ・ 実 践 活 動

昭和21年4月	旧制秋田中学(現・秋田高等学校)より秋田鉱山専門学校(現・秋田大学)に入学するも翌年、中退。農家で「住みこみ生活」を体験。根っこ運動の精神的基盤をつくる。
昭和28年3月	東京農大卒業直後、有志の後輩たちの協力を得、根っこ運動を創始す。
昭和29年5月	社団法人世界友の会事務局長就任(会長中嶋久万吉翁の直接の薫陶を受ける)。集団就職等で東京・中京・関西地区に就職した若者たちのために「自立と友達づくり」の『駆け込み寺』をめざし、「根っこの家」建設運動開始。
昭和31年5月	社団法人世界友の会常務理事就任(昭和47年10月まで。その間、在日大使館経由で35カ国から集めた『世界の人形』は保育社カラーボックスに収められ、主要都市約40ヶ所で展覧会をひらく。
昭和32年5月	「MRA世界大会」日本青年代表として渡米。「根っこの家」建設の夢を抱いて帰国。
昭和32年6月	処女作『東京の若い根っこたち』を刊行(第一書局)。以来、エッセイストとして『自信をもって生きる』『若い日をどう生きる』『強く生きる』『青春をためそう』『東京ひとり暮らし案内』『何が若者を動かすのか』『風雪の人西尾未広』『高校3年生に贈る人生論』『友達をつくる人生論』『二十歳の青春に贈る人生論』『人恋しきあなたに贈る人生論』『大根踊り人生論』『生涯青春』『強く美しく生きるには』など64冊の著書がある。(共著も多数)
昭和34年11月	若い根っこの会を全国組織に拡大強化。(この年、若い根っこの会飛躍の基礎となる)
昭和35年5月	(社)世界友の会会長の中嶋久万吉翁ご逝去にともない、同会の常務理事兼事務局長として世界の人形収集の功が認められ、世界友の会創始者の木下乙市理事長より、この世界の人形を譲渡され、将来の「世界人形館」設立をめざして、永年管理・保存の使命を負った。その後、根っこの家完成後は、若い根っこの会会長として、財団法人根っこの家が、3階高原の間と望郷の間を使って厳重に保管し、損傷なきよう努めてきた。
昭和36年4月	埼玉県川越市に「根っこの家」を建設。以後、月刊「明星」月刊「平凡」に読切小説および人生相談を執筆担当、会員急膨張す。(ピークは昭和36年～昭和48年)
昭和36年9月	『財団法人根っこの家』を設立、国際電信電話社長町田辰次郎氏を理事長として、常務理事となる。モデルなき勤労青少年運動を展開、集団就職などで大都市にやってきた勤労青少年の駆け込み寺的役割を担い、友だちをつくる場としてメディアの注目をあつめ、戦後史の一断面としてのユニークな働く若者組織として発展。移動研修会開催の波が全国にうねる。
昭和36年10月	出版・文化の収益事業部門として、株式会社根っこ文庫太陽社設立、社長となる。その間、テレビ映画『いのちの朝』(水戸光子・小山田宗徳ほか)〈昭37〉、『北風つ子』(森繁久彌・伴淳三郎・賀原夏子・藤間紫・コロムビアトップ・野末陳平ほか)〈昭44〉、『夕焼けのマイウェイ』(原日出子・篠田三郎・宝田明ほか)〈昭54〉制作。なお、この映画制作のプロデューサーとして当時、劇団四季の研究生だった馬籠法子を主役に抜擢したことになみ、本人の切望により加藤日出男の名の一部を芸名とし、原日出子とした。現在、原日出子は女優として第一線で活躍している。このほか映画化(松竹、東映)・テレビドラマ化(NHK、TBS、フジテレビ等)9作の原作を手がける。
昭和37年	当時、月刊「平凡」・月刊「明星」両誌執筆中の熱心な読者から職員になった奥野木秀子さん(当時15歳・白血病のため20歳で急逝)がコカ・コーラの広告をいただいていたことが縁で、高梨仁三郎先生(東京コカ・コーラボトリング社長)が、根っこの家の理事として発展的運動の飛躍を支援す。
昭和38年～39年	産経新聞夕刊コラム『思うこと』、および、読売新聞夕刊コラム『随想』に毎週連続執筆。
昭和36年2月	本間千代子歌・上原げんと作曲の「はじめて愛する」「愛しき雲よ」〈日本コロムビア〉の作詞を担当し、以来、レコード(森進一・小林旭・山田太郎・由美かおる・紫倉麻里子・三橋美智也・2代目コロムビアローズ・フランク赤木・森田健作・葵ひろ子・鎌田英一・星乃ひとみ・渡京子・可愛まり・琉とけし・野中小百合(糸川蛸子)・原日出子・波絵里子・真咲よう子・唐木咲美・仲村泰人・池末信&ゴスペルアンサンブル・心奏(うら)ほか)の作詞は全192曲。
昭和47年7月	若い根っこの会『洋上大学』を実施。ガム・サイパン南十字星航路にて創造・自由・友愛を基調に過去39回就航。第1回(ベニグノ・アキノ氏が歓迎交流企画をひきうけた第1回のみマニラ・ホンコン航路)以来すべての団長をつとめ、研修生約1万7千7百名を洋上研修におくりだし、のべにして地球を5周半の航海をつづけている。
昭和48年9月	全国商工会連合会からの依頼を受け、全国商工会連合会青年部の歌の作詞をする。この「商工会青年部の歌～明日をつくる友だち～」は米山正夫作曲・菊池幸泉編曲により、山田太郎の唄で日本クラウンより発売(PRS-334。B面は、米山正夫作曲・菊池幸泉編曲・山田太郎唄の「俺らの町にや夢がある」)。
昭和49年10月30日	天皇陛下の赤坂御苑遊会にご招待いただき、時の皇太子殿下(現天皇陛下)のご下問の栄を受ける。
昭和50年8月	財団法人根っこの家理事長に就任、現在に至る。その間、サンブラザホール等にて、舞台と客席を一体化したミュージカル風の『ライブ青春』全国大会を毎年開催。
昭和57年5月	商船三井客船株式会社より名誉船長の辞令を受け就任。
昭和59年4月	毎日新聞社発行の『証言・高度成長期の日本』(下巻)に《集団就職》で『エコノミスト』誌・編集長との対談が収録され、以後、NHKはじめ、各メディアより戦後史のインタビューを受ける。
平成7年2月	NHK(BS)『日本50年<金の卵>』を解説、戦後史の年少労働者の実録を語る。(同年6月に再放送)
平成7年8月	洋上大学OB組織『サザンクロスクラブ』(代表幹事に福田貴一常務理事が就任)創設・結成。
平成6年10月19日	天皇陛下の赤坂御苑遊会にご招待いただき、その折り、特例ともいえる予定外のご下問の栄を受ける。
平成7年2月	NHK(BS)『日本50年<金の卵>』を解説、戦後史の年少労働者の実録を語る。(同年6月に再放送)

平成7年8月	洋上大学OB組織『サザンクロスクラブ』（代表幹事に福田貴一常務理事が就任）創設・結成。
平成9年8月	『生涯青春クラブ』（初代代表幹事に佐藤欣子理事が就任）発足・結成。少子高齢化社会にともない、若い世代と中高年世代との溝を埋める運動をめざす。
平成10年4月	「ハカラメネットワーク」結成・発足。地球環境、特に「沙漠の緑地化」を考え、21世紀の食糧資源を「海」と「森」と「空」の角度から、新しい海洋牧場・海洋農場の発想を展開。
平成10年9月	「This is 読売」（9月号）に『若い根っここの会45周年／青春この終りなき漂流時代よ』を執筆発表。21世紀の若者と地球環境と海洋資源について提言。
平成11年5月	社団法人日本勤労青少年団体協議会（略称：日勤協）会長に選任される。
平成12年9月	株式会社根っこ文庫太陽社を『株式会社ルーツ海』に社名変更、社長に就任する。
平成14年5月	日本チャータークルーズ株式会社より『ふじ丸』名誉船長の辞令を受け就任。
平成15年2月	NHKラジオ深夜便・こころの時代「青少年と共に50年」2日間放送。（12月にも2日間再放送）
平成15年3月	NHKラジオ深夜便・こころの時代「青少年と共に50年」がNHKサービスセンターよりCD化、発売。
平成15年5月	グアム政府および北マリアナ連邦（サイパン）が『洋上大学の日』制定。
平成15年10月	62冊目の人生論『大根踊り人生論』（東京農大出版会・刊）に根っこ運動の根幹を記述。
平成16年8月	『また来た春の会クラブ』（代表幹事に谷口隆志理事が就任）創設・結成。
平成16年9月	待望の全ゴールデンウィークの就航（ふじ丸）を決め、GW記念として第37回洋上大学募集開始。
平成17年2月	NHKラジオ深夜便・こころの時代「生涯青春について」2日間放送。
平成17年5月	グアム大学にパネル25枚を贈呈し、「ジョン万次郎」コーナーを設置。（米国マサチューセッツ州ニューベッドフォード／フェアヘブン／土佐清水市足摺岬およびジョン万次郎の生家をたずねるのに10年の歳月を要す）
平成18年5月	若い根っここの会の第2ステージとしての洋上大学に続く第3ステージとしての生涯青春クラブ活動を本格的に推進する。
平成19年3月	63冊目の人生論『生涯青春～いのちありがとう』を清流出版より発行。
平成19年5月	第39回グアム・サイパン南十字星洋上大学（5／3～5／12）。『十七歳の硫黄島』（文藝春秋社）の著者で、玉砕の島・硫黄島生還者の秋草鶴次氏ご夫妻を招待。戦時体験者および遺族約50人が参加す。
平成19年7月	64冊目の人生論になる『ひと味ちがう「日本百名言」シリーズ』『強く美しく生きるには』を、こま書房より発行。
平成19年7月	学校法人東京農業大学評議員に、学識経験者として連続推薦を受けて本年も選任される。平成23年7月までの任期となり、榎本武揚創学以来の最長記録をもたらすことになったという。
平成19年10月	『空と海と陸と人を結ぶ陸上大学』PART1『北へ！』を北海道・東京農大オホーツクキャンパスと世界自然遺産知床への、研修の旅で実施。そして11月・12月と続けて3回実施。平成20年6月と7月には根っこ運動のルーツを訪ねる秋田への旅で、第4回・第5回を実施。平成21年6月には、その第6回として、幕末から明治の幕を開けた土佐・高知に、坂本龍馬、中岡慎太郎、岩崎弥太郎、ジョン万次郎の足跡を訪ねる歴史研修の旅を実施。同年11月には、長州・山口県へ吉田松陰の松下村塾を訪ね、萩、下関、秋吉台をめくり、高杉晋作、久坂玄瑞、伊藤博文、山県有朋、前原一誠、品川弥二郎らから学ぶ第7回の研修の旅を実施した。第9回は白虎隊と野口英世を学ぶ旅
平成20年5月	加藤理事長（会長）と田中常務理事（根っこの家館長）が給与辞退、現在までつづく。
平成22年3月	財団法人根っここの家存亡の危機にあたり、過去7度にわたり、財団への債権を放棄、私財を財団法人根っここの家に寄附す。
平成22年3月28日現在	加藤日出男青春塾が、若い根っここの会創立57周年祭の講演で、のべ8,138回に達する。

公 職	
昭和30年4月	東京都社会教育委員
昭和31年4月	文部省教育映画等審査審議会委員（「文部省特選」などの審査）。昭和35年文部省教育放送審議会専門委員。
昭和44年5月	フジテレビ・ニッポン放送・文化放送3社番組審議会委員
昭和44年7月	学校法人東京農業大学評議員（推薦評議員として在任中）
昭和45年5月	総理府青少年問題審議会委員（4期8年間在任）
昭和45年5月	フジテレビ番組審議会委員（25年11ヶ月在任）
昭和48年4月	アジア社会問題研究所理事（15年間在任）
昭和48年6月	総理府老人問題懇談会委員（内閣総理大臣の私的諮問機関）
昭和50年5月	日本ボニーベースボール協会コミッショナー
昭和51年5月	財団法人日本青少年研究所理事（在任中）
昭和54年10月	セブン&アイグループ労働組合連合会（旧イトーヨーカドーグループ労連）顧問（在任中）
昭和63年5月	社団法人日本ワーキング・ホリデー協会顧問
平成7年10月	東京農業大学非常勤講師
平成10年1月	CSTV「Jドキュメント750ch.」番組審議会委員
平成10年7月	財団法人勤労者福祉振興財団（通称：サンブラザ）理事
平成11年5月	社団法人日本勤労青少年団体協議会会長（在任中）
平成11年6月	社団法人日本ワーキング・ホリデー協会理事（在任中）
平成11年7月	労働省女性少年問題審議会委員
平成11年11月	天皇陛下即位十年奉祝委員会代表委員
平成13年1月	厚生労働省労働政策審議会臨時委員
平成21年11月	天皇陛下即位二十年奉祝委員会代表委員

賞 罰

昭和36年5月	朝日新聞社より「朝日明るい社会賞」受賞。
昭和55年5月	グアム政府より日本人で初の名誉大使の称号を受ける。
昭和55年7月	労働大臣賞受賞。
昭和61年4月	藍綬褒章受章。
平成5年5月	グアム政府より最高栄誉賞受賞。
平成5年5月	北マリアナ連邦政府より名誉大使の称号を受ける（北マリアナ連邦上院・下院議会の議決による）。

洋 上 大 学 の 実 績

第1回から第39回洋上大学全航程の企画主催と団長（最高責任者）および講師を任じ、毎回の硫黄島沖慰霊祭そしてサイパン慰霊祭を主宰す。
以下に、各回の詳細とゲスト講師の先生を記す。（敬称略）

◆第1回〔昭和47年(1972年) 7/10~7/24。マニラ・香港航路。オリエンタル・クイン号〕講師は石田博英、和田啓生、曾山克巳、西義之、遠藤欣之助ほか。425名。	◆第20回〔昭和63年(1988年) 5/03~5/13。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世〕講師は、曾野綾子、J. M. グレコほか。529名。
◆第2回〔昭和48年(1973年) 3/26~4/05。グアム・サイパン航路。オリエンタル・クイン号〕講師は石田博英、和田啓生、曾山克巳、西義之、児島襄、吉田忠雄ほか。456名。	◆第21回〔平成元年(1989年) 4/29~5/09。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世〕講師は、平岩弓枝、石川敬ほか。527名。
◆第3回〔昭和48年(1973年) 11/21~11/30。グアム・サイパン航路。オリエンタル・プレジデント号〕講師は石田博英、滝田実、伊藤善市、吉田忠雄ほか。474名。	◆第22回〔平成2年(1990年) 4/29~5/09。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世〕講師は加藤地三。毎熊真ゆみほか。520名。
◆第4回〔昭和49年(1974年) 5/03~5/13。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅰ世（あるぜんちな丸）〕講師は滝田実、曾山克巳、児島襄、橋本明ほか。431名。	◆第23回〔平成3年(1991年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は有馬真喜子、深尾凱子ほか。508名。
◆第5回〔昭和49年(1974年) 11/29~12/09。グアム・サイパン航路。コーラル・プリンセス号〕講師は西義之、吉田忠雄、香山健一ほか。452名。	◆第24回〔平成4年(1992年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は西義之ほか。530名。
◆第6回〔昭和50年(1975年) 11/06~11/16。グアム・サイパン航路。セブンスーズ号〕講師は西義之、富田信男、鈴木俊子、村田正浩ほか。490名。	◆第25回〔平成5年(1993年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は渡部昇一、塩崎秀勇、仲村泰人ほか。462名。
◆第7回〔昭和51年(1976年) 7/13~5/23。グアム・サイパン航路。セブンスーズ号〕講師は、中村勝範、鈴木俊子ほか。489名。	◆第26回〔平成6年(1994年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は佐藤欣子、小泉武夫ほか。428名。
◆第8回〔昭和52年(1977年) 5/03~5/13。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世（セブンスーズ号改め）〕講師は、近藤典生、原豊、矢野健一郎、鈴木俊子ほか。527名。	◆第27回〔平成7年(1995年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は小川宏、池末信ほか。442名。
◆第9回〔昭和53年(1978年) 5/03~5/13。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世〕講師は、原豊、鈴木俊子。473名。	◆第28回〔平成8年(1996年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は西尾幹二、清田東樹、唐木曉美、吉田洋ほか。445名。
◆第10回〔昭和53年(1978年) 11/17~11/27。グアム・サイパン航路。コーラル・プリンセス号〕講師は中村勝範、香山健一、原豊、鈴木俊子。310名。	◆第29回〔平成9年(1997年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は宇佐美忠信、楳木佳子ほか。453名。
◆第11回〔昭和54年(1979年) 5/03~5/13。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世〕講師は吉田忠雄、千石保、川瀬一雄。508名。	◆第30回〔平成10年(1998年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は石井英夫、井原伸允ほか。419名。
◆第12回〔昭和55年(1980年) 5/03~5/13。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世〕講師は、内藤泰子ほか。522名。	◆第31回〔平成11年(1999年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は佐藤欣子ほか。379名。
◆第13回〔昭和56年(1981年) 5/03~5/13。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世〕講師は、児島襄、内藤泰子ほか。530名。	◆第32回〔平成12年(2000年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師：谷口隆志ほか。383名。
◆第14回〔昭和57年(1982年) 5/03~5/13。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世〕講師は、佐藤欣子、小野清子ほか。529名。	◆第33回〔平成13年(2001年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は大伴明、芳村真理ほか。366名。
◆第15回〔昭和58年(1983年) 5/03~5/13。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世〕講師は、佐藤欣子、小野清子ほか。527名。	◆第34回〔平成14年(2002年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は、明石康、高木剛、原田達治ほか。381名。
◆第16回〔昭和59年(1984年) 5/03~5/13。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世〕講師は、鈴木俊子、川原千寿子ほか。486名。	◆第35回〔平成15年(2003年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は高木剛、宗由貴、子道寿美子ほか。345名。
◆第17回〔昭和60年(1985年) 5/03~5/13。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世〕講師は、木元教子ほか。528名。	◆第36回〔平成16年(2004年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は、小川宏、上野重喜、上野和子ほか。315名。
◆第18回〔昭和61年(1986年) 5/03~5/13。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世〕講師は、上坂冬子ほか。492名。	◆第37回〔平成17年(2005年) 4/29~5/08。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は、平岩弓枝、高野久美子、長谷川由美子ほか。379名。
◆第19回〔昭和62年(1987年) 5/03~5/13。グアム・サイパン航路。につぼん丸Ⅱ世〕講師は有馬真喜子、JANIS M. ディアスほか。525名。	◆第38回〔平成18年(2006年) 4/11~4/20。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は高梨圭二、土井正三、五藤禮子、中村美栄子ほか。311名。
	◆第39回〔平成19年(2007年) 5/03~5/12。グアム・サイパン航路。ふじ丸〕講師は、上野和子、三島敏夫、五藤禮子、秋草蘭次ほか。398名。
	参加研修生累計 17,694名。

著 書

『東京の若い根っこたち』（処女作）〔第二書房〕、『若い太陽』『根っこ物語』『根っこ』（トモブックス）、『二十代』（池田書店）『若者を感動させる経営』（労働新聞社）、『生きるぞ雑草のように』（サンケイ出版）、『嵐の中の若者たち（友情行進曲）』（東京信友社）、『根強く生きるぞ』（実業之日本社）、『東京ひとり暮らし案内』（日本実業出版社）、『青春をためそう』『愛と荒野を生きる』（以上、PHP研究所）、『青春を生きる言葉』『青春に贈る言葉』『青春=こころの花束』『愛するものに生きる』（大和出版）、『友をつくる法』『虹の鉄橋』『青春のいのちを燃やそう（でっかく生きよう）』『若い日をどう生きる』『自信をもって生きる』『勇気を燃やす人生論』『人生をすばらしく生きよう』『孤独の中から立ち上がれ』『強く生きる』『愛は歩みはじめる』『出会いをつくる人生論』『すばらしきひとの人生論』『高校三年生に贈る人生論』（以上、大和書房）、『何が若者を動かすのか』（佼成出版社）、『好きだから嫌い』（フジテレビ出版・扶桑社）、『さよならまたね』『孤独絶望愛』『はじめて愛する』『若いいのちのことは』『かあさん長生きしてね』『太陽を抱く娘』『友よ夕陽よありがとう』『若き日の友に捧げる人生論』『人恋しきあなたに贈る人生論』『二十歳の青春に贈る人生論』『友達をつくる人生論』『燃ゆるいのち愛して生きる』『青春をためそう』『高校3年生に贈る人生論』『むなしさに愛がさしこむ人生論』『もうじき幸せ人生論』『愛されてますか、青春』『もつと愛してもいいですか』『いちどでいいから愛されたい』『風雪の人西尾末広』（以上、根っこ文庫太陽社）、『大根踊り人生論』（東京農大出版会）、『生涯青春～いのちよありがとう』（清流出版社）、『強く美しく生きるには』（ごま書房）など、著書が全64冊ある。また、ほかに『世界の人形』（保育社）、『問いかける青春』（PHP研究所）、『人生と幸福』（大和書房）、『劣等感と自信』（大和書房）などの共著も多数。

映画・TVドラマの原作

映画化作品の原作	◇『嵐の中の若者たち』〈原作「嵐の中の若者たち（友情行進曲）」〉。東映映画。昭和35年制作。小野透、山田真二、久保菜穂子ほかの出演。 ◇『かあさん長生きしてね』〈原作（「かあさん長生きしてね」）〉。松竹映画。昭和37年。芸術祭参加作品。川頭義郎監督、倍賞千恵子、勝呂誉、田中絹代、伴淳三郎、佐田啓二ほかの出演。主題歌は三橋美智也。
TVドラマの原作	◇『根っこたち』〈原作（「東京の若い根っこたち」）〉。制作は劇団民芸、NHK放映。昭和32年。山本学ほかの出演。 ◇『根っこ物語』〈原作（「根っこ」「根っこ物語」）〉。制作はフジテレビ、フジホーム劇場。昭和36年。小山田宗徳、三ツ矢歌子ほかの出演。 ◇『さよならまたね』〈原作（「さよならまたね」）〉。TBS制作、東芝日曜劇場。昭和38年。石坂浩二が主演デビュー。 ◇『夕焼け雲は知っている』〈原作（「はじめて愛する」）〉。朝日放送制作、TBS系近鉄金曜劇場。昭和38年。橋田寿賀子脚色、工藤堅太郎主演。 ◇『虹の鉄橋』〈原作（「虹の鉄橋」）〉。朝日放送制作、TBS系近鉄金曜劇場。昭和39年。橋田寿賀子脚色。出演は、十朱幸代、渚健二、河野秋武ほか。 ◇『かあさん長生きしてね』〈原作（「かあさん長生きしてね」）〉。朝日放送制作、TBS系近鉄金曜劇場。昭和39年。楠田芳子脚色。出演は、望月優子、田村正和、十朱幸代ほか。

映画などの制作

自主映画制作	◇『いのちの朝』〈原作（「若い根の春」）〉ならびにプロデューサー担当。昭和37年制作。出演は小山田宗徳、水戸光子、賀原夏子ほか。
いずれも文部省選定。フジテレビ放映。	◇『北風っ子』〈原作（「北風っ子」）〉ならびにプロデューサー担当。昭和44年制作。出演は、森繁久彌、伴淳三郎、藤間紫、横山ノック、野末陳平、千葉裕子ほか。神谷吉彦監督。 ◇『夕焼けのマイウェイ』〈原作（「すばらしきひとの人生論」）〉ならびにプロデューサー担当。昭和54年制作。出演は、篠田三郎、宝田明、コロムビア・トップ、賀原夏子、原日出子ほか。岡崎明監督。
創作劇の原作・脚本・演出ほか	『どしゃぶり』（昭和35年）、『パンと母と』（昭和36年）、『去る人よ愛しき』（昭和39年）、『さよならまたね』（昭和40年）、『星とサバンナ』（昭和55年）の演劇。『わが胸にきらめく南十字星』（昭和63年）などのミュージカル。『粋な人間家族』（平成7年）や『につぼんの“ちゃぶ台”は何処へ消えた?!』（平成18年）などのレビュー。その他、NHKラジオ深夜便「こころの時代～青少年と共に50年」（平成15年放送。NHKよりCD化）等TV・ラジオ出演多数。
その他	音楽レコード・カセットテープ・CDの作詞は192曲。平成21年2月25日に作詩曲「あなたがいたから」が心奏（うら）のヴァイオリンと歌で22年ぶりにリニューアルされ、パップレコードより発売。また、カセットテープ講演集（各60分）は、『青春を生きる』から最新録音の第40弾『ピンチこそチャンス!』まで全40本。

講演実績

旧文部省（社会教育団体、全国大学、高等専門学校、高等学校、中学校）、旧郵政省（郵政研修所）、旧労働省（旧婦人少年室ほか）、旧農林水産省（農村青少年クラブほか）、旧厚生省（社会保険大学校）、警視庁（警察学校ほか）、旧大蔵省（印刷局および税関研修所）、旧建設省（建設大学校）、旧法務省、地方自治体（社会教育・商工労働など）、商工団体、経営者団体、各種企業、UIゼンセン同盟、電機労連、造船重機労連、自動車関連労組、鉄鋼労連、全金同盟、全化同盟、食品・薬品・流通関係労組、および、病院、各農協団体、女性団体、青少年団体、ロータリークラブ、ライオンズクラブのほか、根っこの家を中心に『加藤日出男青春塾』も8138回。

講演テーマ

2010年（若もの問題「ある分岐点」）迫る／若ものは何処へゆく、このにつぼん／魅力的若もの発見論／定年から始まる新ロマンとは何か／生涯青春／いのちよありがとう／自己未来開拓拡大論／につぼん、この素晴らしい素顔の真実をさぐる／生きることに恋をしよう／人生リサイクル時代の到来／人こそ企業のいのち／人材発見能力の育成／強く美しく生きるには／平凡。この素晴らしい幸福論 etc.